

## モズ (学名: *Lanius bucephalus*)

[スズメ目 モズ科]



▲(左)目の周りが黒いモズのオス (右上)モズの若鳥 (右下)モズのはやにえとなったカエル

樹木の葉が落ちるこの時期、生垣の枝先にカエルや昆虫、時には小鳥が串刺しにされているのを見つけることがあります。これは、モズの「はやにえ」と言い、捕まえた獲物を小枝や有刺鉄線に刺すというモズ類に見られる特有の行動です。この行動の理由は、エサを引き裂くため、貯食のためなどと言われていますが、はっきりとはしていません。

モズは、北海道から沖縄まで、日本全国の開けた環境に生息する鳥で、全長20cmとスズメよりひと回り大きな鳥です。動物質を主な食物とし、自分よりも大きなキジバトを襲うこともあります。繁殖期はつがいで、それ以外の時期はオス・メスともそれぞれ単独でな

わばりを持ちます。9月になると「モズの高鳴き」と呼ばれる「キーキキキッ キチキチキチキョン キョン」といった甲高い鋭い鳴き声が頻繁に聞かれるようになり、激しいなわばり争いがくり広げられます。モズは、会津若松市などでは一年中見ることができそうですが、只見町では雪が多くなる頃には見かけなくなります。積雪によってエサとなる動物がいなくなるためだと考えられますが、せっかく獲得したなわばりを雪のために手放すのは無念なことでしょう。

今年は、何時頃いなくなるのか、注目したいところです。

詳しくは、  
只見町プラセンター  
までお問い合わせ  
ください

### 企画展示

「只見町の生物多様性を考える」

期 間：2015年12月19日(土)～2016年2月29日(月)

### プラセンター講座

「自然の恵みの活かし方—今までもユネスコエコパーク登録後も—」

日 時：12月19日(土)午後1時30分～3時

日本のユネスコエコパークを推進する日本MAB計画委員会の委員長であり、生態系管理や資源管理をご専門とする松田裕之氏(横浜国立大学教授)をお招きし、お話しいただきます。